

- ・新年のご挨拶
- ・表彰おめでとうございます！
- ・令和4年度予算要望
- ・松の木プロジェクト学習会
- ・施設部会 全体研修会
- ・特別支援学校長との懇談会
- ・エリア活動報告（高岡・氷見エリア）
- ・東海北陸育成会大会オンライン参加
- ・「財産管理」どうしますか？
- ・学齢期 サポートノート学習会
「障害年金の申し立て準備のために」
- ・本人活動部会
- ・生活サポート協会からのお知らせ



手をつなぐ とやま

第179号

富山県手をつなぐ育成会
富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館内
TEL 076-441-7161
FAX 076-441-7255
mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
HP http://toyamaikusei.jp/
発行責任者
平野 幹 夫

みなさんの会報です
よく読みましょう



表彰状を代わる代わる持って、喜びを分かち合ったそうです。
(12月・青年の会)

なくそう差別 守ろう人権

富山市手をつなぐ育成会「みんなの青年の会」
文部科学大臣表彰
おめでとうございます！

富山市手をつなぐ育成会の「みんなの青年の会」が、令和3年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

生涯にわたって、障害者の多様な学習を支える活動実績が他の模範と認められたものです。

1990年に富山市の保護者数名によって、前身の「青年学級」が設立されてから31年。

「みんなの青年の会」では、四季折々の行事や、知的障害のある本人たち自らが企画した学習会などを、月に1回程度行っています。

保護者を中心に運営されていますが、社会人・学生ボランティア、ボランティア団体、支援学校教員などの協力もいただき、交流する中で障害理解啓発の場にもなっています。

行事のお知らせを送ると、すぐに嬉しそうな声で、「参加します！」と電話が鳴り続ける「みんなの青年の会」。

学校卒業後の生きがい、学び、交流の機会となり、様々な体験を通して、知的な障害のある人の自立と社会参加を高めると共に、保護者やご家族の孤立防止にも貢献しています。

今後、たくさんの方々の生きがいの場となり続けるでしょう。おめでとうございます。

新年のごあいさつ



理事長 四方正治

皆様方には、新しい年を心新たに気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素から、育成会活動に力強いご支援、ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、障害のある方が施設や病院で療養を余儀なくされたり、家族が感染し自宅待機を指示されるなど、不安感が募るとともに、日常生活に大きな制約を受けました。

このため、5月に富山県厚生部長に対して、「新型コロナウイルスの早期接種とPCR検査の推進」を緊急要望しました。

県内では、障害者支援施設におけるクラスターに対処するため、全国に先駆けて、入所・通所の事業所利用者や職員に対して集団接種が始まりました。

ひとりひとりが考える 実践活動



事前収録した映像が1月下旬にユーチューブにて公開される予定です。

族や育成会の仲間同士、つながりを大切にして、感染予防と体調管理に留意し、平穏な日常が戻る日まで心身の健康を保っていききたいと思えます。

本人部会の活動については、福光美術館で開催された、障害のある人のアート作品展の鑑賞や、ワクチン接種の学習会などを行いました。

「権利擁護推進委員会」については、富山県育成会において、「松の木プロジェクト」の冊子を活用して、民生委員児童委員や専門職との合同研修会を開催しました。

富山市以外のエリアや支部においても、松の木プロジェクトの冊子を活用した学習会が少しずつ展開され、3月上旬に、今年度取り組まれた学習会の報告会を開催する予定です。

当会の最重要事業である「あんしんサポートノート」づくりについては、昨年度の会報特集号に引き続き、今年度の会報では具体的な活用方法を集めています。

記録したノートが引継書となって、支援の輪が広がっていくよう願っています。

さて、本県における感染拡大につきましましては、オミクロン株の拡大など、今後も予断を許さない状況が予想されます。

育成会としては、引き続きご家

表彰おめでとうございます

全国手をつなぐ育成会 連合会

令和2年度表彰状

大屋 靖久 氏 (砺波市)

長きにわたり富山県育成会理事、砺波市手をつなぐ育成会の会長として、年代や家庭環境の異なる会員をまとめられ、地域福祉の推進に寄与されています。



令和3年度感謝状

富山パイロットクラブ 様

二十年以上にわたり、脳関連障害児者への支援を行われています。育成会会員も多数参加し、毎

手をつなぐ育成会 東海北陸協議会

前島 靖彦 氏

(社福) セーナー苑 副苑長

年楽しみにしているパイロットウォークや、パイロット美術展の開催、県内施設でのボランティア活動などを通して、障害福祉の向上と理解啓発、地域共生社会づくりに多大な貢献をされています。



曲り角 とまる習慣 待つしつけ

富山県手をつなぐ育成会 理事長 表彰

感謝状

川村 雅也 氏

(社福) セーナー苑

地域生活サービスポ 部長

山岡 久弘 氏

(社福) セーナー苑

はるかぜの丘 施設長
前島氏は36年、川村氏は37年、山岡氏は34年という長きにわたり、支援職員として利用者支援に尽力され、利用者の処遇向上に多大な貢献をされています。

表彰状

常楽 美恵子 氏 (魚津市)

魚津市手をつなぐ育成会の役員、会長として、長きにわたり会員をまとめられ、下新川エリアにおいても多様なイベントや研修会を積極的に開催するなど、育成会活動の発展に尽力されています。

大橋 利男 氏 (いみず苑)

いみず苑保護者会理事、年金委員会理事を長きにわたり務められ

ています。利用者、保護者、職員との連携、相談に尽力され、保護者会運営に大きく寄与されています。

富山県知事表彰

尾崎 順子 氏

(社福) 手をつなぐとなみ野

NPO法人 となみ野後見福祉会 理事長

富山型共生グループホームや共生型デイサービス事業所の開設に取り組みなど、障害福祉サービスと地域に密着したサービス事業を広く展開し、地域共生社会づくりの推進に多大な功績があります。

また、平成22年に北陸三県で初の法人後見を担う団体として認定されたNPO法人では、現在でも多数の法人後見を受任する傍ら、県内初の市民後見人養成講座を開催するなど、広く後見制度の周知に努め、自らも支援担当の一人として、多くの方の支援に尽力されています。

令和4年度 富山県予算に対する要望書

令和3年10月28日(木)、富山県厚生部・木内部長をはじめ、教育委員会(県立学校課、教育企画課)、経営管理部(人事課)、商工労働部(労働政策課)に対し、要望活動を行いました。

特に、施設保護者会へのワクチン接種アンケートも参考にして、新型コロナウイルスの第3回目の接種に向けて、引き続き集団接種・巡回接種の実施と合理的配慮の提供を要望しました。



1. 新型コロナウイルスに関する不安の払しょく

- (1) 新型コロナウイルスの影響により疲弊状態が続く、いわゆる「8050世帯」をはじめとする障害者世帯が孤立しないよう、家族支援施策の一層の充実強化
- (2) 知的障害児者と家族が感染した場合の医療提供体制と、知的障害児者の個別支援体制の確立
【一時受け入れ施設の設置例(神奈川県、神戸市、東京都杉並区など)】
- (3) 新型コロナウイルスワクチン接種時等における、障害特性を考慮した適切な対応

2. 権利擁護の推進

- (1) 障害者差別解消法や「障害のある人の人権を尊重し県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例」の一層の普及・啓発と、

3. 特別支援教育の充実

- (1) 学校における交流及び共同学習、障害当事者の話しを聞く機会などを通じた、幼少期からの「心のバリアフリー(障害者理解)」の推進
- (2) 【新】「児童生徒1人1台タブレット」の配備に伴い、児童生徒の障害特性を踏まえたICTの活用と、教職員のICT機器

4. 地域生活支援の推進

- (1) 地域における乳幼児期からの早期相談支援や早期療育を充実するための体制整備
- (2) 【新】学校卒業後の就労に向

新型コロナウイルス感染症等を理由とする偏見や不当な差別、風評被害の防止徹底

- (2) 本人の高齢化や親亡き後を見据えて、障害者が住み慣れた地域での安心した暮らしにつながる成年後見制度の利用が促進されるよう、呉西地区成年後見センターをはじめとする権利擁護支援中核機関の機能強化と市民後見人育成の推進
- (3) 「障害者虐待防止法」の周知徹底を図り、障害者の自立支援、及び虐待の事前予防の観点から行われる擁護者支援の好事例の紹介など擁護者支援の一層の推進

に関する研修の充実

- (3) 【新】幼児期から学校卒業後まで切れ目のない特別な支援が必要な幼児児童生徒に対して、学校(園)、家庭、地域、医療、福祉等の関係機関が連携した、切れ目のない支援体制の整備推進
- (4) 学校卒業後から生涯にわたって、文化・スポーツ面を含めた障害者の多様な学びや体験機会の充実
- (5) 【新】小中学校における医療的ケア実施体制の充実をはじめ、特別支援教育コーディネーターの専任化、特別支援教育支援員や巡回指導員の拡充など特別支援教育充実のための体制強化
- (6) 【新】特別支援学校の建物の老朽化に伴う計画的な整備と、感染症や自然災害に対応した施設設備の整備

- (3) 障害者の高齢化・重度化や親亡き後に備えるとともに緊急時への対応を図るため、相談や緊急時受け入れの24時間対応(空床型短期入所)や体験の場など、障害者の生活を地域全体で支える機能を備えた「地域生活支援拠点」の整備
- (4) 行動障害が顕著な人への支援不足から、生活介護やショートステイなどの利用が断られることのないよう、支援員に対する障害特性を踏まえた研修の充実や適切な支援体制の整備
- (5) 「我が事・丸ごと」の地域共生社会づくりを進めるため、地域での生活のしづらさや複合的な生活課題を抱える家族の相談を包括的に受け止めるための、市町村における包括的な相談支援体制(いわゆる「断らない相

- 談)の整備
- (6) 障害者の高齢化や重度化、認知症の発症に対応できるよう、障害福祉と介護・医療との連携や共生型サービスの推進、及び介護保険制度への移行に関する柔軟な対応事例の紹介などによる制度の周知
- (7) グループホーム、共生型グループホーム、生活介護事業所等の整備費所要額の確保と、設置に伴う地域住民に対する継続的な理解啓発活動の推進
- (8) グループホームにおける医療的ケアや強度行動障害、高齢化に伴う特別なニーズ等に対応できる支援員の配置と報酬単価の適正化
- (9) 福祉・介護人材の確保・定着を図るための支援施策の推進

5. 就労支援の推進

- (1) 障害者優先調達法による発注拡大に努め、障害者の活躍の場を拡大するとともに、富山県工賃向上支援計画」を検証し、障害者が地域で自立した生活が送れるような所得保障の拡充

- (2) 【新】「富山県障害者活躍推進計画」に基づき、知的障害の特性に配慮した職務の選定・創出の工夫や、知的障害の特性を踏まえた初級職の障害者採用試験の実施(選考採用)など、障害者の活躍を推進するための環境整備
- (3) 様々な特性を持った知的障害者が、雇用現場で意欲を持って活躍でき、職場定着が図られるよう、雇用現場における相談窓口の設置や合理的配慮の周知徹底

6. 防災対策・安心安全対策の推進

- (1) 知的障害者の障害特性への理解啓発、コミュニケーション支援、誘導支援等を盛り込んだ防災訓練の実施
- (2) 障害特性に応じた福祉避難所の設置(事前周知)と一般の避難所の中での専用スペースの確保
- (3) 障害者が避難できる施設の場所を、障害者に具体的に提示する仕組みの構築(サービス等利用計画での対応)など、災害時

- 支援の具体的な情報提供の推進
- (4) 災害時の避難所における感染症対策と障害特性に応じた合理的配慮の提供
- (5) 地域における知的障害者理解の浸透を図るための「ヘルプマーク」の普及啓発と、災害時や緊急時など困ったときに配慮や手助けをお願いする「ヘルプカード」の作成

※【新】の要望項目は、今回、新たに盛り込まれた項目です。

要望懇談の中で、四方理事長からは、今も障害者に対する理解がなかなか難しいところがある。家庭内においても、理解されて協力的なところもあれば、一方では障害に対する受け止め方が難しい家庭もある。障害の有る無しにかかわらず、地域で一緒に暮らすという考え方を浸透させていくことが大切であり、木内厚生部長に対して、障害理解啓発の推進を強く訴えられました。

「親から地域へのバトンタッチ」 「松の木プロジェクト」学習会が 始まっています！

「親から地域へのバトンタッチ」
「松の木プロジェクト」の取り
組みについて、これまでの会報で
も度々お伝えしてきました。

この取り組みから生まれた親向
け、本人向けの冊子を使った学習
会が、少しずつ各地で始まってい
ます。



12月4日、富山市民生委員児童委
員協議会(以後、民生委員)の高齡
者障害者福祉部会と共催で、研修会
を行い、親亡き後の障害者を地域で
支える仕組みづくりについて、共に
考える機会としました。

冊子の概要説明の後、100名を
超える参加者が地域ごとのグループ
に分かれて意見交換をし、育成会か
らの参加者は、障害のある子どもの
特性などを交えて自己紹介や、親亡
き後の不安、悩みなどをお話ししま
した。

民生委員さんからの感想で多く
あったのが、何か手助けをしたい、
という思いはあるが、障害のある人
がどこにいるのか、どんな心配事
があるのか、どう接したらいいのか
からない。「障害のある方の情報が
ない」ということでした。

一方、親の方からも民生委員の活
動をあまり知らなかったという発言
や、どこまで地域に情報を開示でき
るだろうかと自問自答する声があり
ました。

アンケートでは、このような機会
をもっと増やしてほしい、地区・校
区など身近な単位で、このような研
修会を継続して行ってほしいとの声
が多く、今後も顔を合わせながら、
お互いを「知る」、「理解する」こ
から始めていきたいと思えます。

■「けやき苑保護者会」(富山市)

これまで、「松の木プロジェクト」の
説明を何度もお聞きする中で、この
学習会は、20名程度で集まって進め
るのがベストではないかと思ってい
ました。

苑全体では80名余りの利用者がい
ますが、最近の保護者会への出席者
が20〜30名程度になっているため、
この人数で少しずつ学習会を始め
て、いずれは習慣化され、保護者全体
に広がっていけばいいと考えました。

10月に20名で実施し、苑長と事務
局長にも参加していただきました。

自分自身、この冊子の内容を充分
に把握しておらず、どこから始めれ
ば良いかわからず困りましたが、冊
子の中で取り組みやすい、話しや
すいページを探し、「なぜ手放せな
い？」を1回目の学習会のテーマに
しました。

話し合いの中で、将来はグループ
ホームへと考えているが、何もでき
ない、具体的に考えられないという
意見がありました。

参加者の中には、既にグループ
ホームを利用している方もあり、利
用してからのお子さんの変化や、ご
自身の気持ちなどをお聞きする中
で、まずはショートステイを利用し
ながら、子ども自身の「自立してい
こう」という思いを育てようとい
うことになりました。

同席されていた苑長や事務局長か
らは、ショートステイの仕方や、何
曜日か空いているといった情報も教
えていただきました。

これまでに「何とかしなくては」と
いう気持ちがあっても、いざとなる
についても、率直な意見が飛び交い
ました。

家庭の事情、本人の特性も各々異
なるため、家族での話し合い(引継
ぎ)を深め、どのような制度が必要
なのか、使えるのか、具体的に学ぶ
ことがまだまだあると感じました。

コロナ渦ということもあり、人数
を絞って開催しましたが、今回の参
加者が中心となって、今後、となみ
エリアの各地域での学習会を展開し
ていく予定です。

■「手をつなぐ高岡保護者会」

会報で「松の木プロジェクト」の
記事をご覧になった職員さんからの
提案で、細川瑞子さんを講師に、保
護者、本人、職員さん約20名による
学習会が開催されています。(詳細
を伺いましたら、後日掲載させてい
ただきたいと思えます。)

学習会を通して、各地域や保護者
会で、将来について考えるべき筋道
が見えてくるようです。

県育成会でもお手伝いをいたしま
すので、ぜひこの「松の木プロジェ
クト学習会」をすすめてください。

と行動に移せなかった方にとって、
少し背中を押されたような機会に
なったかと思えます。

今後、仲間同士で話しやすい
テーマを選び、20分程度の話し合
いを重ねていきたいと思えます。

■「あすなろ保護者会」(富山市)

「親なき後」のことは、常に気にな
る話題ですので、機会があれば学習
会に参加したいと思っていました。

保護者会の役員さんからも開催を
希望する声があり、最初の学習会と
して、この冊子作成の中心となっ
た細川瑞子さんによる講演会を企画
し、11月に実施しました。

〈特に不安なこと〉

保護者20名と、所長にも参加して
いただきましたが、講演会後には、
様々な意見が寄せられました。特に
不安なこととして、「親なき後のこ
と」、「本人の健康面」、「親の緊急時
の対応」、「いつまで施設に在籍でき
るのか」などということがあがりま
した。

グループで話し合いをすることに
よって、皆、同じような不安を抱
えていることがわかりました。「暮

らしの場づくり」と、「成年後見制
度」について気になるという方が多
く、私たちの子どもの将来に必要な
もの、考えていくべき筋道が見えて
きました。

■「めひの野園保護者会」

県育成会の総会で、冊子が紹介さ
れ、毎年開催している保護者会での
研修会について、今回は細川瑞子さ
んを講師に、この冊子を使った講演
会を10月に開きました。

住まいの場が気になります。現
在、保護者会では第3次グループ
ホーム設立委員会を立ち上げるべく
準備中です。

〈グループホーム利用後のこと〉

グループホーム利用で、暮らしの
場の不安は少なくなりますが、入居
後に本人が老化して自由に動けなく
なった時、病気になる時、どうなっ
ていくのか、その後のことが気がか
りですので、一歩先の将来のことに

施設部会 全体研修会

施設長・保護者会役員 懇談会

「コロナ禍における支援」

令和3年12月3日(金)、県内の各施設長と保護者会役員などによる「施設部会全体研修会」を、呉羽ハイツで開催しました。

今年度、県内の施設において、新型コロナウイルスのクラスターが発生しました。

クラスターが発生した施設において、収束するまでの約2か月間、状況は、後日、伝え聞くだけでも壮絶なものがありました。

そこで、今回の懇談会のテーマは、「コロナ禍における支援」とし、クラスターが発生した施設での当時の状況や対応、今後の課題等を中心にお話しを伺い、共有する機会となりました。

入所施設でクラスターが発生した場合、現状ではそこが病院、療養の場となってしまいます。その中で、自らも感染するリス



クや恐怖を感じながらも、防護服一式を身に付け、医療の専門家ではない職員さんが、療養面でも支援しなければならぬという状況は、大変困難だったそうです。

感染者の療養支援、感染していない利用者の日中・夜間の生活、食事の支援など、職員の皆さんの奮闘ぶりを、頭が下がる思いで聞き入りました。

発生から収束まで、県や市町村、医療機関と連携しながらの対応となったようですが、事前に感染を想定した検討・検証が実施されていたため、陽性者が報告されてからの利用者全体の健康確認、消毒、生活空間のゾーニングなどが、大変迅速に行われたそうです。

特別支援学校長との懇談会

特別支援学校の校長先生方と県育成会のエリア代表者との懇談会を10月12日(火)に開催しました。

平成27年に始まり、毎年意見交換する機会を持っています。

校長先生からは、コロナ禍における学校の取り組みや、保護者が求めている情報、育成会の活動等について、率直なご意見をいただきました。

特に、児童生徒が学校生活している間は守られているが、卒業して地域に出ると、理解してもらえにくいことが多々出てくる。居住地の小中学校との交流を進めていきたいが、地域の方々に障害のある生徒を知ってもらうにはどうしたらよいだろうかと思っている。

育成会からは、子どもたちは一人ひとり障害特性が違うので、先生方の専門性も磨いていただきたいこと、年金の学習会などの講師や、何かお手伝いできることがあれば協力していきたいという発言がありました。

育もう 傷みをわかる 心の眼

あり、感染対策の難しさが浮かび上がりました。

さて、クラスター収束までの約2か月間、家族への感染回避などの理由から、車中泊を続けた職員も多く、施設がホテルを手配、また、総合病院の宿舎を借りたという事例もあったそうです。

富山県育成会では県に対し、知的な障害のある人が感染した時の医療提供体制や、同居する家族の感染時に、日常的な世話が必要な人のための一時受け入れ施設の設置、重い障害のある方への対応が可能なショートステイの確保など、支援体制の確立を求めてきました。

このような一時施設があれば、支援職員の宿泊場所にも利用でき、インフルエンザや他の感染症への対策にも有用であることから、今後も継続して、緊急時の支援体制の充実を要望していきたいと思えます。

また、今回のクラスター発生という事態に、当会では直接なんらかのお手伝いや、支援をすること

る行事です。

コロナ禍での開催のため、来場者のマスクの完全着用や、飲食禁止、休憩時間での空気入れ替えをして感染防止に努めました。

音楽が演奏されるや否や、みんながステージ前に集まって、歌ったり踊ったりと、思い思いに楽しみ、保護者の皆さんは、若いころに流行していた曲が流れると、一緒に口ずさむなどして、みんな楽しんで時間を過ごしました。



また、今年は、マジシャンのコンプレッサさんによるマジックの披露もありました。カードマ

はできませんでした。今後は情報共有をしながら、育成会という組織力を生かして、何ができるのか模索していきたいと思えます。

最後に、ご参加の各施設長から



も、感染対策に日々心血を注いでいることや、様々な工夫を凝らした支援の様子を伺いました。

「持ち込まない、持ち出さない、広げない」という感染対策の基本を守りながらの、前向きな皆さんの決意に安堵し、今後も施設と保護者が車輛の両輪となって、本人たちの暮らしを支えていこうという思いを強くしたところです。

ジック、リングマジック、そして段ボールでのイリュージョンなど、どれもみなとても不思議で、驚いて見えていました。

昨年に引き続き今年も、新型コロナウイルスの影響で、たくさんの方の行事が中止になり、残念な年となりました。

その中でもみんなが集まって、気兼ねなく楽しめるこのクリスマスライブは、ずっと開催していきたいと思えます。

(高岡市手をつなぐ育成会)

高岡・氷見エリア事業 オールディズクリスマスライブ

12月5日(日)に、富山県高岡文化ホール・小ホールにて毎年恒例の「オールディズクリスマスライブ」を開催しました。

— 子がまねる 親の正しい 歩き方 —

第53回 手をつなぐ育成会東海北陸大会

(静岡県・沼津市／オンライン)
令和3年12月18日(土)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、静岡大会が1年延期となり、今年はオンライン方式により、東海北陸大会が開催されました。富山県では、サンシップとやまに会場を設けて視聴できる環境を整えるとともに、自宅からもオンライン視聴できるように準備をしました。

参加者は初めてのオンライン視聴で、心配もありましたが、スクリーン越しに間にシンポジストのお話しを聴けて良かったという声、参加して良かったという声が多くあがりました。

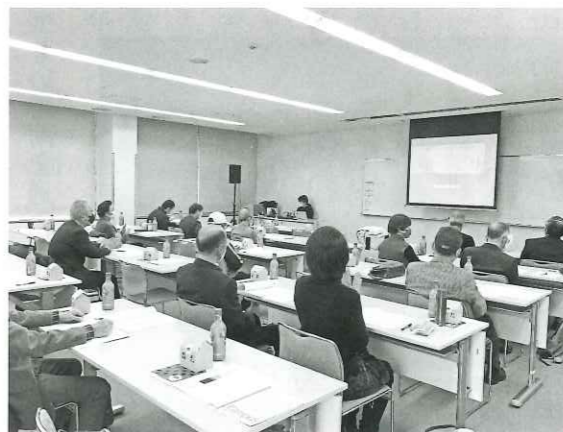
以下、簡単に内容をご紹介します。午後から式典とシンポジウムが開催され、全国手をつなぐ育成会連合会の久保厚子会長は、コロナ禍がこれほど広がるとは予想できなかったが、1年かけてオンライ

ンで繋がるようになった。これまで苦労したことを無駄にしないで、手をつないで支え合っていきたい、共生社会づくりには難しいところもあるが、全ての人が安心して暮らせる社会を一步一歩進めていきたいと、挨拶されました。

シンポジウムでは最初に、植草学園大学副学長の野澤和弘氏が登壇され、人材育成をテーマに講演されました。

人口減少の時代では人材の取り合いになるが、初めて引きこもった年齢で最も多いのが60歳から65歳というデータから、中高年の転職者を福祉の戦力にできないだろうか。福祉に無縁の大学生と障害者との出会いや、小中高生への出前講座で、児童生徒が障害者から受ける衝撃などを思えば、単に人材確保だけではなく、社会全体に

好影響をもたらす視点を大切にすべく、低成長社会とポストコロナを見据えて、多くの示唆をいただきました。



次に、全国手をつなぐ育成会連合会専務理事の田中正博氏からは、防災を切り口に、地域で幸せに暮らすためのポイントについてお話しをいただきました。

福祉施設における災害時の対応、業務継続に向けた取り組みを中心に紹介いただきました。

最後に、静岡県手をつなぐ育成会理事の高木誠一氏からは、高齢

期を迎えた人への支援について、終の棲家と考えていた入所施設が増えない中で、グループホームでの支えが可能か、という親なき後の問題を掘り下げて話しされました。

グループホームでは、在宅医療を利用できるが、入所施設では地域医療が活用できない仕組みになっており、グループホームにおける看取りの支援の実態を紹介されました。

親や本人は、将来に対し漠然とした不安を抱えているにもかかわらず、具体的な困りごとがないため、相談機関につながらない。漠然とした不安に関しても相談できる人がいるのかどうか、将来の安心への大きなパスポートとなること、高齢期を迎えた人への支援について実態を踏まえてご提言をいただきました。

参加の皆さんは、3人のシンポジストのお話しから、これからの生活や活動に向けてたくさん元気をいただきました。

繰り返し、相談しよう」といった、わかりやすい答えがありました。

明るい立山の会の話し合いでも、時々このような話題が出るものがありますので、皆、真剣に耳を傾けていました。

東海北陸大会 本人大会 (オンライン)

本人大会のテーマは「わがまじまん」。アドバイザーは、吉川かおりさんと、又村あおいさんという豪華版でした。

本人たちにとって、初めてのオンラインでの参加となりましたが、静岡・沼津市の会場との接続テストの時点で、「こんにちは」と手を振って盛り上がり、なつかしい東海北陸の仲間たちの顔に、笑顔が広がりました。



本人部会「明るい立山の会」では、10月、11月と2度にわたって、「富山の自慢できるもの」を話し合い、発表に向けて、特に自慢したいものベスト10を作って挑みましたが、なんと当日の持ち時間は5分きっかり！

どうする、どうすると、頭を悩ませて、紹介しやすい「食べ物」、「観光名所」、「鉄道」を発表することになりました。

ブラックラバーメンや海の幸、雄大な景色が楽しめる立山・黒部アルペンルート、「鉄道王国」と呼ばれる全国的にも珍しい、富山のいろいろな鉄道たち。

東海北陸の仲間たちに向けての発表は、カチコチに緊張しながらも大成功でした。

静岡県、石川県、岐阜県、名古屋市と、それぞれ特色のある、楽しい、楽しい、「わがまじまん」。

コロナが収束したら、またみんなと会って話したい、いろいろな美味しいものを食べにいきたい、もっと、富山県の良いところを紹介したい、知ってもらいたいと、興奮冷めやらぬ参加者たちでした。



自己紹介と質問コーナーでは、「お父さん、お母さんが死んだら、いなくなったら、私はどうなるのか心配です。どうしたらいいですか?」と発言した方がいらっしゃいました。

コーディネーターの又村あおいさんからは、「まずは相談。職場の職員さん、相談員さんに話を聞いてもらおう。」

吉川かおりさんからは、「相談しよう。あまりこの人は話を聞いてくれないなと思ったら、また別の人に話を聞いてもらおう。とにかく相談してみよう、あきらめず



「これからも本人活動を頑張ろう、エイエイオー!」と、参加者全員が声を合わせ、手を振り合いながら本人大会は終了しました。

またオンラインで話し合いをやってみたいという声もあり、なかなか会えない仲間たちと久しぶりの再開に喜びがあふれていました。

シリーズ

「あんしんサポートノート」を活用して「これから」を考える

その② 「財産管理」について

富山県金融広報アドバイザー 上田 亨氏

富山県金融広報アドバイザーの上田亨さんによる、「あんしんサポートノート」を活用して「これから」を考える」シリーズ。今回は、「財産管理」についてお送りします。



あなたは、自分の財産を把握していますか？

財産の管理をどのように考えていますか？

財産といえば何でしょう。

預貯金や株式、不動産、貴金属や骨董品など、いろいろあるかと思いますが、また、忘れてはいけな

いのが、ローンなどの債務、マイナスの財産です。

これらをサポートノート27ページの「生計と財産管理」を参考に、書きあげてみてください。さらに、親が元気なうちに、子どものライフプランにあった財産管理として、前もって準備できることがあります。例えば、定期的

(※ノートは本人の生計を書く様式です)

また、お子さんの1カ月の収支も、サポートノート27ページに書き出してみましよう。

家族全体の家計と一緒にしていると分かりにくいのですが、お子さんの独立した収支をはっきりさせることで、将来への見通しが見えてきます。

そこで、ご家族や、お子さんのライフプランに合わせた資産状況になっているのか、将来のための蓄えが十分か、必要以上に蓄えて

切です。

それがお子さんの幸せにもつながります。

今回のポイント

「ご自身(家族)とお子さんそれぞれの財産を把握し、収支をはっきりと確認してみましよう。

将来、誰かに託すことや、どのように託したいのかを想定しながら、サポートノートを

書きましよう。相談できる人、信頼できる仲間とつながりましよう。



上田 亨さんプロフィール

信託銀行にて33年間勤務。退職後には、相続・不動産・成年後見を中心とした研修・セミナーの講師として活動し、近年は、障害者、特に知的障害者の親の会等で講師を務めるとともに、障害者のための金銭教育や生活設計相談に尽力されている。令和3年、金融庁、日本銀行から、「金融知識普及功績者表彰」を受章。

差別ない 心で広げる 豊かな社会

いるのではないかと、見直すことができます。

さて、書き出した財産を見て、これらをどのように管理していくのかを考えなければいけません。

親は、自分の財産は自分で管理できますが、障害のあるお子さんはどうでしょうか。

自分でできる人、誰かに助けてもらうとできる人、ほとんどできない人、それぞれ異なります。

お子さんが自分でできるのか、方以外は、どう管理をするのかを、よく考えておく必要があります。

親が元気なうちは、親が管理してあげることが出来ます。しかし、親の判断能力が低下した時や、親が亡くなった時、いわゆる「親なきあと」に、どうするのか。そこ

が課題です。

判断能力が不十分な人については、家庭裁判所が選任した成年後見人が財産管理をすることになります。

成年後見人に家族が選任されればいいのですが、本人のことをよく知らない専門職が選任されるこ

とも多くあります。

成年後見人が、本人の気持ちや暮らしぶり、能力、生きがいなどをよく理解してくれていると安心ですが、本人のことをよく知らない専門職だったらどうでしょうか。不安ではありませんか？

そこで、「あんしんサポートノート」が効果を発揮するのです。

特に「本人情報」、「障害特性」、「健康・医療管理」、「日常の暮らし」の項目に加え、「親の願い」を記載しておくこと、これまで本人のことをほとんど知らなかった専門職の後見人でも、これを見て、本人のことをよく理解した上で、後見業務(財産管理)を行って

れることが期待できます。

また、子どものことをよくわかってもらっているNPO法人や、市民後見人などを後見人候補者として申立書に記載する方法もあります。(かな

らずその法人や人が選任されるのは限り

ませんが)



学齢期会員

サポートノート学習会 障害年金の申し立てのために

11月23日(祝)、学齢期会員さんを対象に、サポートノート学習会を行いました。

テーマは昨年好評だった「障害年金の申し立て準備のためにノートを書いておこう」というものです。

主な内容や資料は、昨年とほぼ同じ、毎回この学習会では、実際の書類一式を手元に置いて、「申立書」の書き方、「診断書」の書いてもらい方、この2つの書類の重要性やコツをお話ししています。

親が書く申立書は勿論、医師に依頼する診断書の内容は、保護者も事前によく知っておくことが重要です。

今回は、先輩アドバイザーとして毎回ご協力いただいている宮田真知子さん(富山市)に加え、昨年、申し立てをされた野村幸恵さん(富山市)にも参加していただき、ご自身の経験や最新の情報、学校卒業後の暮らしや仕事、障害

年金の管理方法や、使い方をとお話ししていただきました。また、将来、グループホームを利用した際の収支や、成人期になると、どれぐらいのお金が必要となるのか等も考えてみました。

最近では障害年金について、様々なセミナーがありますが、富山県育成会の学習会では、これまでの子どもの成育歴や特性、変化、成長の記録が、障害年金の申し立てはもとより、今も、将来も、ずっと役立つっていくことを納得いただけるようお伝えしています。

「この人はどんな暮らしをしてきたのだろう、どんな人たちが関わって、どんな成長をしてきたのだろう」と、これまでの歩みを知ること、たくさんの方が関わってきた人だ、大切に育てられてきた人だという理解も得られ、一貫した支援が期待できます。

大切な障害年金申請の準備をきっかけに、将来にわたって、お子さんの伴走者となる「サポートノート」の記入に取り組んでいた

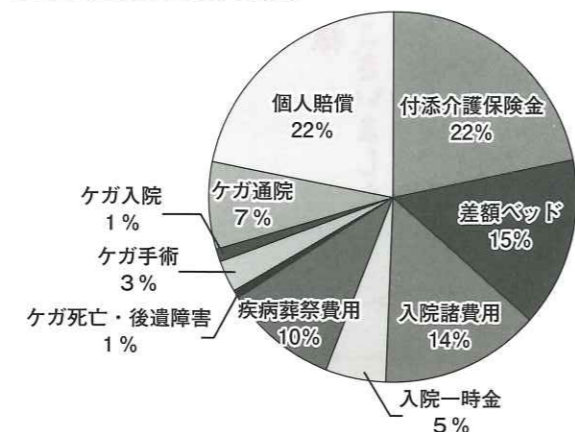
富山県知的障害児者生活サポート協会だより

～生活サポート総合補償制度は 知的障害児者・自閉症児者の暮らしを支援します～

<2020年度 保険金支払状況>

補償内容		支払状況	
		請求 件数	保険金支払金額 (円)
病 気 ・ ケ ガ	入院 給 付 金	付添介護保険金	90 4,384,000
		差額ベッド費用	130 2,970,000
		入院諸費用	196 2,813,000
		入院一時金	197 1,037,700
病 気	葬祭費用保険金	20 2,000,000	
ケ ガ	傷 害 保 険 金	死亡・後遺障害	3 140,000
		手術	19 570,000
		入院	22 212,750
		通院	120 1,512,600
		個人賠償	87 4,432,485
合 計		884	20,072,535

■保険金支払金額の割合



【特長】

- ・病気やケガでの入院給付金が全体の半分以上を占めています。
- ・既往症やてんかんも補償いたします。

「加入していてよかった！」サポート保険

- ケガ**
- ・車椅子から落ちて骨折し31日間入院 **Bプラン 253,000円**
内訳：入院保険金155,000円(31日分)、手術保険金50,000円、通院保険金12,000円(4日分)、入院一時金6,000円、入院諸費用30,000円(30日分※1日免責)
 - ・扉に顔をぶつけ目を負傷。入院し手術を行う **Aプラン 84,500円**
内訳：入院保険金27,000円(9日分)、文書代5,500円、手術保険金30,000円、通院保険金22,000(11日分)
- 病気**
- ・乳がんにより16日間入院 **Aプラン 57,000円**
内訳：傷害疾病入院一時金5,000円、入院諸費用13,000円(13日分)、室料差額39,000円
 - ・新型コロナにより32日間自宅療養 **Aプラン 37,300円**
内訳：傷害疾病入院一時金5,000円、入院諸費用29,000円(29日分※免責3日)、文書代3,300円
- 賠償**
- ・不穩になり施設の窓ガラスにコップを投げつけ破損させる **Bプラン 4,200円**
 - ・グループホームの自室の引戸を蹴って破損させる **Aプラン 169,400円**

パンフレットのご希望など、お問い合わせは下記までお気軽にご連絡ください

- ◆富山県知的障害児者生活サポート協会
電話 076-441-7161 FAX 076-441-7255 (平日9時30分～16時30分)
- ◆担当代理店 JIC セントラル(株) 北陸長野支店
電話 076-223-0323 FAX 076-223-0368 (平日9時～17時)

確かめる 確かな注意 身を守る

本人活動部会

パイロットウォークに参加

10月24日(日)、富山パイロットクラブ主催の「パイロットウォーク」が開催されました。コロナ禍への配慮から少人数で開催されるということで、今年も本人活動部会の行事として参加させていただきました。



素晴らしい秋晴れの中、パイロットクラブの皆さんと一緒に、富岩運河環水公園内を約1時間のウォーキング。

久々となった屋外活動に、「やっぱり外はいいね」と気持ちよさそうな面々。顔を合わせた途端、「すごく楽しみにしていました！」と笑顔で声を弾ませる人も。近況を語り合ったり、景色を楽しんだりしながら、交流を深め、ウォーキング後には、併催されている「パイロット美術展」で、感性豊かな作品の数々を鑑賞するなど、すがすがしく楽しい1日となりました。

※パイロットウォークは、脳関連障害を持つ方々への支援と外傷性脳障害の予防を呼びかけながら、障がいのある人と支援者や協力が共に歩き、この活動を広く周知すること、障害理解啓発を目的に、毎年開催されています。

話し合いとクリスマスづくり

10月3日(日)、11月28日(日)と、12月にオンラインで開催される東海北陸大会・本人大会でのテーマ

曲り角 とまる習慣 待つしつけ

「わがまちじまん」で発表する内容を話し合いました。

ふるさと自慢は、得意分野。富山県の美味しい食べ物、観光名所、祭り、名産品、出身有名人など、次から次へと意見が出てきました。「富山は美人が多い」「富山は親切な人が多い」という意見も飛び出し、「えーっ、どうかな？」と大爆笑、大激論になりました。

11月の話し合いの後には、クリスマスリースづくり。当初、「お正月飾り」を作る予定でしたが、時期が少し早く材料が揃わず、急遽、しめ縄を使ったクリスマスリースづくりに変更！



カラフルなしめ縄を土台に、造花やサンタの人形など、思い思いのデコレーションを選び、レイアウトを考え、グルーガンを使ってしっかりと貼り付けたら完成！少人数での部会となりましたが、その分、数を気にせず飾りも選び放題となり、それぞれのセンスが光る、かつこいクリスマスリースになりました。



富山県育成会の会員になりませんか!

知的障害のある本人たちの権利擁護を推進し、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりと一緒に進めましょう。

正会員

障害のある人の保護者や家族

年会費 5千円 (1世帯)

市町村支部や施設保護者会でさまざまな活動を行っていますので、市町村支部等にもご入会をお願いします。

賛助会員

育成会の活動を理解、応援して下さる方を募っております。

年会費

特別賛助会員 1口 3千円

賛助会員 1口 1千円

ご入会いただいた方につきましては、令和4年5月発行の会報にご芳名を記載させていただきます。(匿名でも結構です)

富山県保育士会様

ありがとうございます

今年も富山県保育士会様より、たくさんのおタオルの寄贈をいただきました。施設や事業所などにお送りし、大切に使用させていただきます。温かいご支援、ありがとうございます。

施設部会 特別研修会のご案内

「将来の生活設計」親亡き後の準備について

講師：綿 祐二氏

(日本福祉大学福祉経営学部 教授) (社会福祉法人 睦月会 理事長)

日時：令和4年2月26日(土)13時30分～15時30分 場所：呉羽ハイツ 雅の間(地下1階)

親亡き後のことって、地域で暮らす人たちだけの問題?

施設利用者の保護者は、施設にお任せしたままで、親亡き後の不安は全くないと言い切れますか?

医療や財産管理、成年後見など多くの課題がまだ残っています。

いつか来る「親亡き後」のことについて、私たちが決めておくこと、準備できることなど、共に考えたいと思います。

施設部会に特化した内容となりますが、「親亡き後」をキーワードに、広く参加者を募ります。

参加ご希望の方は、2月18日(金)までに富山県育成会事務局までご連絡ください。

支部長・知的障害者相談員等 合同研修会 (予定)

日時：令和4年3月5日(土)

場所：サンシップとやま 6階

6～7ページでご紹介しました、「～親から地域社会へのバトンタッチ～ 松の木プロジェクト」について、学習会の報告と今後の展開などをテーマに開催する予定です。

支部長、相談員のみならず、この取り組みについて関心のある方に、広くご参加いただきたいと思います。詳細は追ってご案内いたします。

育成会の動き

Table with 2 columns: 期日, 内容. Includes reports from 10/3 to 11/20.

Table with 2 columns: 期日, 内容. Includes reports from 11/23 and planned events from 2/18.